

1. 総評

(1) 年度初めの幼稚園の状況 【幼稚園の現状及び前年度の成果と課題】**幼稚園の現状**

3年保育が主流になる中、3歳時は家庭で、入園したら幼稚園とともに子育てをしたいと、本園を選んで我が子を入園させている家庭がほとんどである。そのため、大変協力的な保護者が多い。

今年度は4月に、園の向かい側に帝京科学大学が開校し、交流を目指した。

- ・**幼児は…**愛情深く家庭で育てられ、情緒が安定している。興味や関心も旺盛で、物事への意欲もある。一方で、生活習慣面でできないことを周囲の大人に頼ろうとしたり、困難なことに会うと諦めたり、最後までがんばろうとする気持ちに乏しかったりする姿も見られる。また、自己主張が強く、相手の気持ちに気づいて思いやったり、相手の思いを受けとめて一緒に遊びを進めたりすることができにくい姿も見られる。
- ・**教師は…**正規教員1名、非常勤講師2名で2学級を受け持っている。それぞれ一人一人の幼児を大切に、丁寧な指導に心がけている。非常勤講師は、2名とも今年度新たに着任した。研修体制、機会が保障されていないことが課題である。
- ・**保護者は…**幼児期が人間形成の基礎を培う重要な時期であること、遊びを中心とした指導が幼児期の学習であることを理解し、教育熱心である。幼稚園とともに子育てを楽しみたいという思いから、PTA活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。PTA活動で培った力を小学校のPTA活動で発揮する方も多い。
- ・**地域は…**薔薇の手入れ、木工ボランティア、さくらんぼやみかん採りの体験の提供、もちつき等々、様々なところで力添えくださる方々が多い。子どもたちのために温かく多大な支援をいただいている。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1** たくましく遊び、最後までがんばる幼児の育成

◇ 戸外・運動遊びの計画的な実践

◇ 困難に出会ってもあきらめずに取り組む態度の育成

重点的な取組事項－2 気付き、感じ、考える幼児の育成

◇ 豊かな体験をする

◇ 相手の気持ちや思いに気付き受けとめようとする気持ちの醸成

◇ 丁寧な温もりのある言葉かけ

重点的な取組事項－3 協同して全園児をはぐくむ教職員集団の育成

◇ 一日の保育のPDCA

◇ 情報の迅速な伝達・共有化（危機管理意識を高める）

◇ 介助員とのミーティング

重点的な取組事項－4 家庭の教育力、地域の教育力の活用

◇ 子育ての楽しさを感じる経験

◇ ボランティア活動の充実

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1** たくましく遊び、最後までがんばる幼児の育成

心身ともにたくましく、何事も最後まであきらめずに取り組める幼児の育成を目指してきた。各学年の発達課題にそって遊びを通した指導を行った。家庭へは、自分のことは自分でする、自分で自分の気持ちを律する等自立・自律の大切さを伝えるようにしてきている。園と家庭双方の取り組みにより、一人一人徐々にたくましさを身に付けてきた。しかし、中には、じっくりと物事に取り組んだり粘り強く取り組んだりすることができにくい姿も見られ、継続して取り組むことが必要である。

重点的な取組事項－2 気付き、感じ、考える幼児の育成

自然や人とのかかわりを豊かにする中で、気付き、感じ、考える幼児の育成を目指してきた。人とのかかわりにおいては、葛藤体験や心地よい体験等多様な経験を通して、相手の思いに気付いたり相

手を思いやったりするようになってきた。また、今年度は、元町保育園の年長児との交流を計画的に実践し、同じ地域に住む幼児同士のかかわりを通して、多様な刺激を受けた。しかし、自然体験は、指導計画にそって年間を見通して経験させることが難しい面があった。ことに栽培は時期を逃すと体験することが難しくなるので、計画的な実践を行っていくことが課題である。

重点的な取組事項－3 協同して全園児をはぐくむ教職員集団の育成

幼児の育ちを真中に、教師同士が日常的に保育を振り返ることができた。各学年ともに、週や日々のねらい、活動のねらい等にそって一日の保育を振り返って反省、評価をし、記録するとともに、翌日の保育へつなげることができた。また、教師と介助員との会議を月一回全員で行い、支援児の育ちやその幼児にとってどのような支援が必要かを話し合い、共通理解することができた。幼児についての情報は迅速に共有されたが、年度当初目標としていた非常時の危機管理研修については達成できなかった。来年度の課題である。

重点的な取組事項－4 家庭の教育力、地域の教育力の活用

幼児が、遊びを通して多くの学びを得ていることを理解し、大変協力的であるPTAの教育力を活かして、様々なボランティア活動を実践していただいた。そのことにより、幼児の経験が豊かになった。また、保護者が我が子だけを見守るのではなく、幼稚園の子どもたちを私たちの子どもとしてかかわったり、成長を見守ったりする意識や態度が醸成された。小さい弟妹（園児にとって）のいる保護者が気持ちよく参加できるよう工夫することが課題である。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

元町保育園と一体化し、平成24年度から認定子ども園に移行する。そこで、今年度、元町保育園との交流を計画的に実践し、各園の幼児の生活や育ちをわずかながらも共有することができた。

23年度は、給食室の設置、保育室の増設などに伴う工事が行われる予定であるが、子どもたちの豊かな園生活と豊かな学びを第一に考え、日々の教育活動に取り組みたい。そのためにも、これまでと変わらぬ、保護者や地域の皆様のご協力をいただきたい。

2. 平成22年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 たくましく遊び、最後までがんばる幼児の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
戸外遊び、運動的な遊びの意図的・計画的な実践	園評価において70%以上	2学年ともに、70%以上達成	多様な動きがでる工夫が必要	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
◇戸外・運動遊びの計画的な実践	自己評価において80%以上	・週案への位置づけ	・週案作成、提出は100%達成位置づけは毎週	意識して戸外運動遊びに取組んだ	◎
◇困難に出合ってもあきらめずに取り組む態度の育成	自己評価において70%以上	・課題活動、協同的な遊びの体験	・学級経営案の反省・評価において、70%達成	協同的遊びのとらえ方を共通理解する	○

重点的な取組事項－2 気付き、感じ、考える幼児の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師や友達と心を通わせる体験の積み重ねと言葉の醸成	園評価において70%以上	2学年ともに、70%以上達成	心情面の育ちの読み取りは教師側の力量が必須	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
◇豊かな体験をする	自己評価において80%以上	・自然体験、人とかかわる体験 ・絵本の読み聞かせ	60%達成	自然体験に見通しをもてなかった	●
◇相手の気持ちや思いに気付き受けとめようとする気持ちの醸成	自己評価において80%以上	・友達とかかわる経験のみとり	2学年ともに、80%以上達成	心情面の育ちの読み取りは教師側の力量が必須	◎
◇丁寧な温もりのある言葉かけ	自己評価において80%以上	・幼児理解 ・個々に応じた援助・指導	2学年ともに、80%以上達成	心情面の育ちの読み取りは教師側の力量が必須	◎

重点的な取組事項－3 協同して全園児をはぐくむ教職員集団の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
一人一人の育ちを共有し、協同してはぐくむ体制作り	園評価において70%以上	2学年ともに、70%以上達成		○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
◇一日の保育のPDCA	自己評価において70%以上	・週案の作成、日々の記録、反省、評価 ・日々の情報交換	・学級経営反省評価にて80%達成	日々の記録は細かに丁寧に実践された	◎
◇情報の迅速な伝達・共有化(危機管理意識を高める)	自己評価において70%以上	・日々の情報交換 ・危機管理についての園内研修の実施	・学級経営反省評価にて60%達成 ・危機管理研修は安全指導の中でのみ実施	計画的な危機管理研修	●
◇介助員とのミーティング	園評価において80%以上	・月一回の実施	・毎月実施100%	特別支援児について共通理解を図ることができた	◎

重点的な取組事項－4 家庭の教育力、地域の教育力の活用

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
子育てを学び合い、楽しみ合う気持ちの醸成	園評価において70%以上	・保護者アンケート70%以上達成	小さい弟妹がいる保護者の参加の仕方が課題	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
◇子育ての楽しさを感じる経験	保護者アンケート70%以上	・親子活動の実践、 ・保育参加・参観	・保護者アンケート70%以上達成	小さい弟妹がいる保護者の参加の仕方が課題	○
◇ボランティア活動の充実	保護者アンケート70%以上	・ボランティア活動の推進	・保護者アンケート70%以上達成	”	○

3. 幼稚園活動全般について

○ 自己発揮はできるが、他者の思いに気付きにくいという課題から、人とかかわる力の育ちを大切にしてきた。その一つに“心がつながる経験”を歌を通して体験させようと、園内研究として取り組んだ。教師は教材研究を行いながら、幼児が友達と心がつながる心地良さを味わえるように、熱心な指導に取り組んだ。